



□□67□□

絞りの面白さを体験してもらおう」と、絞りの仕事に携わる若手が中心となって、名鉄有松駅前久野染工場内に「有松絞教室」を開設したのは、五十八年五月。既に四年の「歴史」を持つている。

「最初のうち、いつまで続くかを対象にくかヒヤヒヤの連続でした」と、より高度な技術習得を目的とした集中講習の二コースでスタート。入門編は週一回、午前、午後、夜の三クラスあった。

「伝統の技術を持った人たちが高齢化し、このままでは有松絞は滅んでしまう。そのためには、新しい血を導入しなくては。教室から、絞りの後継者が出てくれれば……」。そんな願いも込められていたという。

講師は、久野さんのほか、竹田耕三さん、早川嘉英さん、安藤宏子さんら若手の絞

り作家が当たった。それまで「事前に、中日新聞で紹介してもらったこともあり、予

# 有松絞教室

## 4年で卒業生280人

有松がいわい 緑区 その2

想以上の反響だった」と久野さん。



絞りの技法について学ぶ生徒たち＝有松絞教室で

現在は毎月一回で、第一、り、染色、糸抜きまですべて第三金曜日(のれん)のそれぞれ午前と午後の計四コースある。講師より実技が主体。デザも、満員の状態。実技が中心だけに、教室内はピンと

た空気が張り詰める。ハンカチやのれんをはじめ、タペストリー(壁掛け)の大作にも取り組む。春、秋には作品展も開き、成果を披露する。

講師の一人、原田弘子さん(三)は「絞りはすべて手作り。温かみのある点が魅力なんでしょう」と言っ。



卒業生は、これまでに約二百八十人。中には、各種作品展に出品して好成績を収める「セミプロ級」の人も出始めた。

### 取材メモ

これまで、とかく伝統の殻に閉じこもりがちだった絞りの世界にも、新しい風が吹き始めたようだ。

文・飯塚、写真・後藤  
有松絞商工協同組合の理事は次の皆さん。(上) 山田肇夫(山盛株式会社) 各務秀男(有松絞染工株式会社) 森武男(匠探武商店) 成田重雄(成虎株式会社)